

「ふるさと老蘇」の良さに触れ、その良さを知り、受け継いで行こうとする「老蘇っ子」の育成をめざして

学校に大規模なビオトープができて十余年。多様な動植物が憩うここを出発点として、広く地域の環境について学び、再生可能な「循環型社会」の実現に向けて、ひとり一人が実践していける力を育むことを目指している。

1 学校の概要

本校は近江八幡市の最東南に位置し、箕作山と織山に挟まれた農村地帯にある、学年単級、児童数 120 人あまりの小さな学校である。

国道付近に工場が進出し、新しい住宅地の開発も行われてはいるが、まだまだ豊かな自然が残ってる地域である。最近では、開発の影響もあって一時期姿を消していたホタルが山裾のあたりの地域で復活し始めている。そんな話も聞こえて来るようになった。

その反面、そこに暮らす老蘇の子どもたちは、日々豊かな物資に囲まれ、多くを使い捨て、消費する生活に慣れ親しんでしまっている。

老蘇の暮らしを支える農業は、琵琶湖の水を田畑に引き込むことで成り立っている。そのことを学び、「使い捨て」の一方通行の消費型社会から、資源やエネルギーを再生利用できる循環型社会を求め、担える子どもたちに育てて欲しいという願いを込めて、エコ・スクールとしての実践に日々取り組んでいる。



ビオトープでの生活科の学習

2 活動の実際

(1) ビオトープにいる生き物と遊ぼう

1・2年生の子どもたちは、ビオトープでの生活科の学習やビオトープでの遊びを通じて、身近な自然と出会う体験している。

子どもたちは池のメダカすくいやトンボ、バッタ、セミつかみなどを体験し、身近なところに暮らす様々な生き物と出会う。そして、このような体験は自分の家の裏庭や畑、近所を流れる小川など、普段の生活の場でも簡単に体験できる活動であることに気づいていく。

(2) 「菜の花」からできるものを知ろう

3・4年生では、「菜の花」について学んでいる。子どもたちは地域の営農組合や養蜂業者、八幡工業高校等の支援を受けて、学校園に菜の花を植え、花が咲いたら菜の花のハチミツを搾



菜種油を使った親子調理活動し

る体験をさせてもらう。さらに刈り取った種から油を取り、その搾った菜種油を使って親子でてんぶらの試食会を開き、菜の花が様々なものに姿を変え、利用されていることを知っていく。

そして最後に、このてんぶら作りに使った菜種油がバイオディーゼル燃料に変身し、その燃料で実際に車が動くことを体験し、さらにその油が来年乗る予定の学習船「うみのこ」にも使われていることを学び、5年生での体験航海へと夢をふくらませている。

(3) 老蘇の農業を学ぶことから、「循環型社会」について考える

5, 6年生では、地域の暮らしを支える産業である「農業」について学ぶことを通して、農業用水である琵琶湖揚水機場の機能やその協力のもとに進める「ニゴロブナ」の仔魚の養流活動や轟川の水生生物調査を通して、自分たちが循環型社会の一員であることを学ぶ。



轟川でのニゴロブナの仔魚の養流活動

老蘇の暮らしを支える農業。4つの営農組合が活動するこの地域の農業用水は、多くを琵琶湖の水に頼っている。4年生で行った「西の湖学習」と合わせて、水を琵琶湖へ流す側として、琵琶湖や西の湖の水質保全の大切さを学び、「川を汚さない」力をつけていく。

(4) 委員会活動を通じて、全校に広がるエコ意識

老蘇小学校では循環型社会を築くために、「継続」や「再利用（リサイクル）」に焦点を当てた様々な活動に取り組んでいるが、その取り組みをリードしているのが、児童会の中の「環境委

員会」と「給食委員会」である。

両委員会では、毎日の給食の牛乳パックのリサイクルや、教室で出る不要な紙のリサイクル、給食の残食ゼロを呼びかけるなどの日常活動を進める一方、7月1日の「琵琶湖の日」に、全校児童が通学路の清掃下校を行う「ゴミ0（ゼロ）大作戦」を企画・実行したり、学級エコ宣言の取り組みを進めている。また、老蘇小の自然に目を向ける「老蘇の宝さがし大会」や「ビオトープ・クイズラリー大会」等、みんなで楽しく遊べる活動に取り組んでいる。



琵琶湖の日、「ゴミ0大作戦」出発式

3、成果と課題

このように、ビオトープをひとつの出発点として取り組みを進めている老蘇小学校のエコ・スクール活動だが、子どもたち一人ひとりが、リサイクルの大切さに気づき、循環型社会を求める行動が取れているかと言われれば、弱い部分が多い。エコロジーを意識した生活が、日々送れているかということ、まだまだ「総論は賛成。各論は反対。」になってしまい、ついついエネルギーや資源の無駄遣いをしてしまう等、児童個人のレベルでの課題はまだまだ多くある。

安土町や西の湖周辺は、かつて「琵琶湖富栄養化防止条例」の制定を推進した地域のひとつであっただけに、今の生活が多少不便になっても「琵琶湖を守ろう」とした地域の人々の願いを受け継いで、もっと環境問題について考え、行動できる子どもたちが集う老蘇小学校にしていきたいと思う。

学校名	近江八幡市立老蘇小学校
住所	近江八幡市安土町東老蘇1300
電話番号	0748-46-3079
E-mail	oisyo@mmc.omihachiman.shiga.jp